

現代の男女平等観が与える社会的影響

岡田和晃, 廣瀬怜奈, 小川夏実, 石黒早央里

要約

本稿ではアンケート調査を通じて男女平等主義の世界観が人々のワークライフバランスの考え方と割り勘行動に与えるそれぞれの影響について分析した. 研究仮説では男女平等の考えを強く持つほど男女問わず社会に出るべきだと考え, 男女で会計を済ませる際に割り勘を好む傾向にあると考えた. 回帰分析の結果概ね研究仮説と整合的な結果を得ることができた.

キーワード : 世界観, 男女平等, ワークライフバランス, 割り勘

JEL Classification Number : 015, Z13

1. はじめに

「夫は外で働き, 妻は家庭を守る」—この従来の日本社会における男女の役割についての差別的な考えは, 女性の社会進出を阻んでいた. 確かに男女間には身体的特徴に違いがみられる為それぞれに適切な仕事があるかもしれない. しかしその違いが「女性は家庭にいたるべきだ」という偏狭な考えを支持し, 女性の社会進出に歯止めをかけているのであればそれは男女の役割配分についての誤解である. このように女性の可能性を狭めてきた思潮は現在, 1972年に制定された男女雇用機会均等法の浸透などに伴って, 少しずつ変わり始めている. 男女平等主義の波及である. 今回の研究では, 広まりつつある「男女平等主義」の世界観が実際経済, 中でも「割り勘行為」「女性のワークライフバランスの認識」の2側面にどのような影響を与えるのかを探る.

まず研究に際して「世界観」「男女平等」「男性優位」「女性優位」「割り勘行為」「女性のワークライフバランスの認識」, そして補助要素である「非混乱変数」の5つの言葉の定義を説明する. まず「世界観」は大垣・田中(2014)の著書「行動経済学入門」から抜粋して「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている, 現実の性質に関する認識, 感情, 判断に関する, 基礎的な仮定と枠組み」と定義する. 次に「男女平等」とは何か定義したい. 本研究では男女平等は「役割的平等」と「価値的平等」の二種類あると考えた. 「役割的平等」とは簡潔に述べると, 役割を男女平等に配分しようとする実生活面での考え方のことである. 対して「価値的平等」とは男女の本質的な価値は平等だとする認識面の考え方だと想定した. そして「割り勘行為」とは男女2人の食事の際, その負担額を両

者同額に払うことである。「男性優位」及び「女性優位」とは研究を進めるにあたり平等観だけではなくそれぞれ逆に「どれだけ男性（女性）が主体を担うべきか」を考えたものである。平等基準の分析では「男性の方が価値ある」という考えと「女性の方が価値ある」という二つの考え方は「不平等な価値付けをしている」という観点から同等に扱われていたが、それぞれの観点では「男性優位変数」「女性優位変数」を用いてそれぞれについて考察した。「女性のワークライフバランス」は「女性の仕事重視度」と「男女の育児負担割合」の2つに別れると考えた。前者は出産・結婚という局面において女性がすべきとする仕事の量に対する度合い、後者は育児を男女平等に負担すべきだとする考え方の度合いを指す。最後に、「非混乱変数」は体格差などの要因で男女の区別が必要なところを正しく認識している度合いと定義する。「非混乱変数」を補助要素として設けたのは、性差を扱う上で必要な区別と不必要な差別の違いを明確にし、研究をより仮説に沿った正確なものにするためである。

本稿では二つの経済行動 —1. 男女間の割り勘, 2. 女性のワークライフバランスの認識— に関して上記の世界観にまつわる質問とともにアンケートを実施し、世界観がどういった有意性を示すのかを調べる。我々は男女の役割的平等観及び価値的平等観の強さに比例して、「割り勘行動」及び「結婚・出産という局面においても女性は仕事を続けるべきだとする考え」「育児は男女平等に負担すべきだとする考え」が強くなるのではないかという研究仮説を立て研究を行った。そして研究結果をふまえた上で、今後我々はどのような社会を築いていくべきなのか、我々のワークライフバランスの理想と現実の溝を埋めるための対策を考えていきたい。

2. 研究方法

SNS 上 (Twitter, Facebook, Line) で我々が作成したアンケートを拡散した(アンケート内容は下記付録参照)。その結果 207 名の回答を得た。アンケート項目は、男女の平等主義の強弱及び理解度を測る質問 A~D(説明変数)、男女間の割り勘行動、女性の結婚後と仕事と育児に対する認識の質問 E~I(被説明変数)、最後に性別・年齢・結婚状態の質問、計 12 の設問からなる。それぞれの質問を点数化し回帰分析を行った。

Twitter は、個々のユーザーが「ツイート」と呼称される短文を投稿し、閲覧できるコミュニケーション・サービスである。リツイート(RT)と呼ばれるユーザーの投稿を再投稿することを利用した。この Twitter での調査法は萩原・福田・福田・水谷・大垣(2010)の論文「住居に対する消費行動と虚栄心の関係性 —首都圏における高層マンションを事例として—」での記述を参考にした。

Facebook は個人プロフィールの作成, 他のユーザーをフレンドに追加, メッセージの交換, プロフィール更新時の自動通知の受信を行うことができる SNS であり, 投稿した文章, 写真等が友人のタイムライン(TL)に表示され, それを友人がシェアすることでアンケートの URL を拡散することができる.

Line はインストールされている携帯同士で通話やチャットが行えるアプリケーションでメッセージに反応したかどうか送信者側が把握することができる. そのため状況に応じてアンケートのリマインドが効率的に可能である.

分析方法はアンケート結果を Excel を用いて集計し, 単回帰分析・重回帰分析を行った.

3. 研究結果

回帰分析の結果, 有意水準 10%で有意・もしくは有意ではなかったが興味深かった結果をこちらで選び, 以下表 1, 2 に記した. ここでは説明変数 (下記アンケートの A~D) 被説明変数 (同 E~I) についてそれぞれ単回帰, 重回帰分析を行った. 係数は符号が正のものが予想と整合的なものである. 結果については付録参照.

4. 考察

a) 単回帰結果より

平等基準の単回帰結果から, 役割においても価値においても男女は平等だと考える人間ほど割り勘にし, 育児負担を夫婦で平等にし, 女性が働くことを望む傾向にあることが言えた. (表 1)

中でも興味深かったのは, 役割的平等を測る質問と夫婦間の育児の負担割合を測る質問では因果関係がみられなかったのに対し, 価値的平等を測る質問と夫婦間の育児の負担割合を測る質問には深い因果関係がみられたことである. ここから言えることは 2 つある. 1 つ目は, 女性は男性と同じように外で働くのが望ましいと考えていても, 家庭内の仕事が均等に分担されているとは限らないということである. 社会の仕事分担と家庭内の仕事分担では事情が違うということが言える. 2 つ目は, 育児負担割合の設定の裏には「夫婦どちらがより価値があるか」ということが大きく関わっているということだ. この点について男女の違いに注目した単回帰から 「リーダーは女性が担うべきと考える人・もしくは女性の方が価値が高いと考える人ほど, 男性が育児を担うべきであると傾向にある」ことと 「男性の方が価値が高いと考える人ほど, 女性が育児を担うべきだと考える傾向にある」ということが言えるため(表 2) これは「男女が価値的に平等であると考えた人は育児負担も平等である」と考えることと整合的であり, 育児負担と言うのは個人の活動の障害となり, 価値的に低い方が担うべきと考えられているという結果を示している.

男女の違いに注目した分析では男性優位の男女役割変数と仕事重視変数の間に負の相関が強くあるのに、女性優位の男女役割変数と仕事重視変数の間に相関がないことから「男性が役割的に重要だと思っている人間ほど女性の社会進出を重視していない」ことが言えた（表 2）ここから「仕事は男性・家事は女性」という伝統的な考えが今なお残っていることが窺える。

b) 混乱変数を含めた重回帰分析結果より

平等基準の分析も男女有意の分析もおおむね単回帰の結果と整合的になり、混乱変数が影響を与えていると思われる結果は少なかった。

c) ダミー変数を含めた分析結果より

ダミーにも有意性が見られるということは男女によって経済行動に違いがみられる場合、もしくはこの世界観では男女の違いを説明することができないことを示すため、付録にはダミー変数が有意であった結果を記載し（表 5）、以下には男女によって経済行動に違いがみられる仮定の考察を記す。結果として「役割的、価値的平等変数が高いほど女性の仕事重視度が高くなる傾向があるが、男性は有意に仕事重視の水準が女性に比べて低い傾向にある」「役割的、価値的平等変数が高いほど割り勘する傾向があるが、女性の方が男性の払うべきと考える金額の水準が高い傾向にある」。という結果もみえる。また経済的には「男性の方が役割的に重要だと考える人は男性が支払うべき金額が高くなる傾向にあり、男性の方が支払うべき金額の水準も高くなる傾向がある」「女性の方が役割的に重要だと考える人ほど会計時に女性が払うべき金額が高くなる傾向があり、女性の方が金額の水準も高くなる傾向にある」すなわち 自分の性格の重要性を認識している場合は異性に比べて支払額を多く提示しようとする傾向にあると言える。

5. 結論

分析結果から男女の役割的平等観の強さに比例して支払いは割り勘に近くなり結婚後も女性は仕事と育児を両立して続けるべきだという考えを強く持つ傾向があるのではないかという研究仮説は概ね正しいと言えた。

すなわちここから言えることは、男女の役割的平等の考えを浸透させることは女性の社会進出を促すことになり、価値的平等の考えを普及することは男性の育児参加の増加につながるため少子化解決の鍵となりうる。また、男女間にある暗黙の了解的な経済的非効率を打破するうえでも役割的平等観は役立つと考えられる。

また育児参加に対して理性的には男女で平等にするべきと考えていても男女の本質的な面ではどちらか一方に任せたいと考えている面があると考えられる。

混乱変数を含めた分析では混乱変数と被説明変数が有意である結果がいくつか見られた。しかしアンケートの結果を参照すると質問Cから「混乱している」と判断される回答が非常に少なかったため分析上は有意でも内容的には非常に不安定なものであったと考えられる。

また課題としては標本に圧倒的に20代、未婚が多かったため年齢及び結婚状態による検証ができなかった点があげられる。

付録：アンケート内容及びその数値データ化の内訳/回帰分析結果

(A)能力や経験において差のない男女2人がいるとします。この2人のどちらかからリーダーを選ぶことを考えた時、あなたの考えに近いものを選んでください。【役割の平等変数】

- ① 男性がするべき…0点
- ② どちらかというとなりがした方がよい…1点
- ③ どちらともいえない…2点
- ④ どちらかというとなりがした方がよい…1点
- ⑤ 女性がするべき…0点

(B)男女の価値について合計10の比率になるよう評価するとき[例]男3：女7,あなたの考えに最も近いものを選んでください。【価値的平等変数】

※男女の価値という漠然とした概念ですが直感でお答えください



(C)『オリンピックにおいて男女ごとに競技を分けるのは男女差別であるから分けるべきではない』という考えについて、どう思いますか。【非混乱変数】

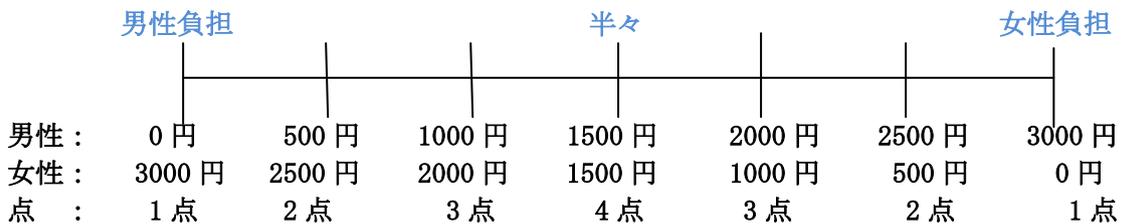
- ① 大いにそう思う…0点
- ② どちらかというとなりそう思う…0点
- ③ どちらともいえない…1点
- ④ どちらかというとなり思わない…1点
- ⑤ 全くそう思わない…1点

(D)女性専用車両があるのだから、平等性の観点から男性専用車両も作るべきだと思いますか。【※平等性以外の要素は考えないでお答えください。】【非混乱変数】

- ①大いにそう思う…0点
- ②どちらかというと思う…0点
- ③どちらともいえない…1点
- ④どちらかというと思わない…1点
- ⑤全くそう思わない…1点

(E) 学生が好きな異性と2人でご飯を食べに行き、会計額3000円だった場合、両者の負担額について最も適切だと思うものを選んでください。(食事の量による男女の値段の差などは無視してください)【割り勘変数】

※お互いアルバイトで月に5~6万円程度の収入がある設定です



(F) 【女性の方】あなたは正社員で働いているとします。収入の安定した人と結婚し、仕事を辞めても経済的には困らないという状態になりました。子供はまだ生まれていないとします。あなたはどうしますか。【仕事重視変数:F^Hの回答の合計】

【男性の方】配偶者の女性がこのような状態の時、妻にどうして欲しいですか。あなたの希望に最も近いものをお答えください。

- ①週休2日以下のフルタイム労働をする(正社員など)…3点
- ②ある程度時間にフレキシブルな労働をする(パートなど)…2点
- ③正社員やパートを含むその他の仕事は一切しない…1点

(G) 前の質問の続きです。【仕事重視変数:F^Hの回答の合計】

【女性の方】その後子供が産まれたとします。生まれたばかりでまだ手のかかる時、あなたはどうしますか

【男性の方】妻がこのような状態の時、どうして欲しいですか。あなたの希望に最も近いものをお答えください。

- ①週休2日以下のフルタイム労働をする(正社員など)…3点
- ②ある程度時間にフレキシブルな労働をする(パートなど)…2点
- ③正社員やパートを含むその他の仕事は一切しない…1点

(H) 前の質問の続きです。【仕事重視変数:F^Hの回答の合計】

【女性の方】子供が成長し、ある程度手もかからなくなったとします。あなたはどうしますか

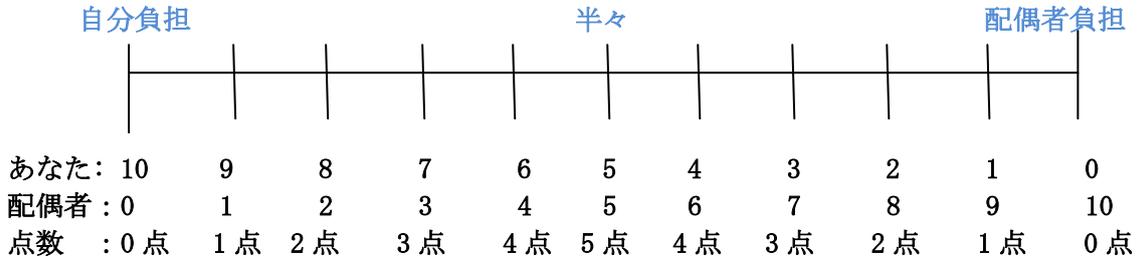
【男性の方】妻がこのような状態の時、どうして欲しいですか。あなたの希望に最も近いものをお答えください。

- ①週休2日以下のフルタイム労働をする(正社員など)…3点
- ②ある程度時間にフレキシブルな労働をする(パートなど)…2点

③正社員やパートを含むその他の労働は一切しない…1点

(I)自分と配偶者の育児の負担割合について、あなたの考えに最も近いと思うものを選んでください。

※あなた自身と配偶者の環境（例：労働しているか否か、専業主婦か否か）といったこととは別に直感でお答えください。



(J)あなたの性別を教えてください。

- ①男性…1
- ②女性…0

(K)あなたの年齢を教えてください。

- ①10歳～19歳（10代変数1/その他0）
- ②20歳～29歳（20代変数1/その他0）
- ③30歳～39歳（30代変数1/その他0）
- ④40歳～49歳（40代変数1/その他0）
- ⑤50歳～

(L)あなたの結婚状態について教えてください。

- ①既婚…1
- ②未婚…0

表1：単回帰分析の結果～平等基準（有意水準 0.01→*** / 0.05→** / 0.1→*）

被説明変数	説明変数	係数	P-値	有意水準	重決定R ²
割り勘変数 (質問E)	男女役割的平等変数 (質問A)	0.2011	0.0371	**	0.021
割り勘変数 (質問E)	男女価値的平等変数 (質問B)	0.2141	0.0044	***	0.0388
仕事重視変数 (質問F~H)	男女役割的平等変数 (質問A)	0.7697	1.42E-06	***	0.1075
仕事重視変数 (質問F~H)	男女価値的平等変数 (質問B)	0.2119	0.0983	*	0.0133
育児割合平等変数 (質問I)	男女役割的平等変数 (質問A)	0.1522	0.2126		0.0076
育児割合平等変数	男女価値的平等変数	0.3093	0.0011	***	0.0509

(質問 I)	(質問 B)				
--------	--------	--	--	--	--

表 2：単回帰分析の結果～男女の違いに着目

(有意水準 0.01→*** / 0.05→** /0.1→*)

被説明変数	説明変数	係数	P-値	有意水準	重決定R2
仕事重視変数 (質問 F~H)	男性優位の男女役割変数 (質問 A)	-0.7871	2.54E-06	***	0.1026
男性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女役割変数 (質問 A)	0.4836	0.01248	**	0.03
男性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女価値変数 (質問 B)	0.3404	0.00044	***	0.0586
女性育児変数 (質問 I)	男性優位の男女価値変数 (質問 B)	0.2742	0.0109	**	0.0312
会計時の男性支払額 (質問 E)	男性優位の男女役割変数 (質問 A)	121.64	0.01932	**	0.0264
会計時の女性支払額 (質問 E)	女性優位の男女役割変数 (質問 A)	202.93	0.03816	**	0.0208

表 3：重回帰分析の結果～平等基準 (有意水準 0.01→*** / 0.05→** /0.1→*)

被説明変数	説明変数	係数	P-値	有意水準	重決定R 2
仕事重視変数 (質問 F~H)	男女役割的平等変数 (質問 A)	0.7616	1.98E-06	***	0.1096
	オリンピック非混乱変数(質問 C)	0.3469	0.4945		
仕事重視変数	男女役割的平等変数	0.73	5.14E-06	***	

(質問 F~H)	(質問 A)				0.1203
	男性専用車両の非混乱変数 (質問 D)	-0.3629	0.0863	*	
育児割合平等変数 (質問 I)	男女価値的平等変数 (質問 B)	0.3027	0.0015	***	0.0524
	オリンピック非混乱変数(質問 C)	0.2229	0.5699		
育児割合平等変数 (質問 I)	男女価値的平等変数 (質問 B)	0.3062	0.0012	***	0.0568
	男性専用車両の非混乱変数 (質問 D)	-0.1814	0.2606		
割り勘変数 (質問 E)	男女役割的平等変数 (質問 A)	0.1918	0.0494	**	0.023
	男性専用車両の非混乱変数 (質問 D)	-0.0852	0.5164		
割り勘変数 (質問 E)	男女価値的平等変数 (質問 B)	0.2121	0.0053	***	0.039
	オリンピック非混乱変数(質問 C)	0.0675	0.8292		
平等基準の割り勘 変数 (質問 E)	男女価値的平等変数 (質問 B)	0.2121	0.0048	***	0.0424
	男性専用車両の非混乱変数 (質問 D)	-0.1126	0.3815		

表 4 : 重回帰分析の結果～男女の違いに着目

(有意水準 0.01→*** / 0.05→** / 0.1→*)

被説明変数	説明変数	係数	P-値	有意水準	重決定 R2
仕事重視変数 (質問 F~H)	男性優位の男女役割変数(質問 A)	-0.788	2.50E-06	***	0.1077
	オリンピック非混乱変数(質問 C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.5473	0.2806		
仕事重視変数 (質問 F~H)	男性優位の男女役割変数(質問 A)	-0.7415	1.10E-05	***	0.1141

	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.3455	0.1048		
仕事重視変数 (質問F~H)	女性優位の男女役割変数(質問A)	-0.2215	0.4883		0.028
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.513	0.0201	**	
仕事重視変数 (質問F~H)	男性優位の男女価値変数(質問A)	-0.0798	0.617		0.0269
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.5012	0.0234	**	
仕事重視変数 (質問F~H)	女性優位の男女価値変数(質問A)	-0.2446	0.1281		0.03671
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.5183	0.0184	**	
男性育児変数 (質問I)	男性優位の男女役割変数(質問A)	-0.0968	0.3389		0.056
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-1.049	0.001	***	
男性育児変数 (質問I)	女性優位の男女役割変数(質問A)	0.3929	0.0406	**	0.0711
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.9473	0.003	***	

男性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女役割変数(質問A)	0.4779	0.0136	**	0.03478
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.1315	0.3193		
男性育児変数 (質問 I)	男性優位の男女価値変数(質問A)	0.0046	0.9616		0.0517
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-1.05	0.001	***	
男性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女価値変数(質問A)	0.3049	0.0014	***	0.098
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.9242	0.0032	***	
男性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女価値変数(質問A)	0.3376	0.0005	***	0.063
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	-0.1278	0.3262		
女性育児変数 (質問 I)	男性優位の男女役割変数(質問A)	0.1713	0.1357		0.0282
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.6792	0.0578	*	
女性育児変数 (質問 I)	男性優位の男女役割変数(質問A)	0.1293	0.2652		0.0334

	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.3263	0.0301	**	
女性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女役割変数(質問A)	-0.2265	0.3008		0.0226
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.6223	0.0867	*	
女性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女役割変数(質問A)	-0.271	0.2074		0.0351
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.3492	0.0185	**	
女性育児変数 (質問 I)	男性優位の男女価値変数(質問A)	0.2808	0.0087	***	0.0501
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.7102	0.045	**	
女性育児変数 (質問 I)	男性優位の男女価値変数(質問A)	0.2584	0.0156	**	0.0551
	男性専用車両の非混乱変数(質問D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.3311	0.0242	**	
女性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女価値変数(質問A)	-0.0849	0.4399		0.0204
	オリンピック非混乱変数(質問C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.6467	0.0741	*	

女性育児変数 (質問 I)	女性優位の男女価値変数(質問 A)	-0.1022	0.3463		0.0318
	男性専用車両の非混乱変数(質問 D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	0.3506	0.0183	**	
会計時の男性支払額 (質問 E)	男性優位の男女役割変数(質問 A)	121.27	0.0193	**	0.0368
	オリンピック非混乱変数(質問 C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	238.06	0.1386		
会計時の男性支払額 (質問 E)	男性優位の男女役割変数(質問 A)	113.2	0.0318	**	0.0307
	男性専用車両の非混乱変数(質問 D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	63.936	0.3452		
会計時の男性支払額 (質問 E)	女性優位の男女役割変数(質問 A)	-184.59	0.0621	*	0.0274
	オリンピック非混乱変数(質問 C) 【どちらともいえないを混乱に含める】	191.42	0.2415		
会計時の男性支払額 (質問 E)	女性優位の男女役割変数(質問 A)	-199.27	0.0415	**	0.0285
	男性専用車両の非混乱変数(質問 D) 【どちらともいえないを混乱に含める】	84.759	0.2052		

表 5 : 重回帰分析の結果～ダミー変数

被説明変数	説明変数	係数	P-値	有意水準	重決定 R2
仕事重視変数 (質問 F~H)	男女役割的平等変数(質問 A)	0.7583	1.81E-06	***	0.121
	性別(質問 J)	-0.3643	0.0782	*	
仕事重視変数 (質問 F~H)	男女価値的平等変数(質問 B)	0.242	0.0589	*	0.0339
	性別(質問 J)	-0.4532	0.038	**	
割り勘変数 (質問 E)	男女役割的平等変数(質問 A)	0.1882	0.0458	**	0.0704
	性別(質問 J)	-0.4117	0.0012	***	
割り勘変数	男女価値的平等変数(質問 B)	0.2452	0.0009	***	0.1023

(質問 E)	性別(質問 J)	-0.4693	0.0002	***	
仕事重視変数 (質問 F~H)	男性優位の男女役割変数 (質問 A)	-0.7736	3.42E-06	***	0.1157
	性別(質問 J)	-0.3593	0.0834	*	
会計時の男性 支払額 (質問 E)	男性優位の男女役割変数 (質問 A)	112.35	0.0256	**	0.093
	性別(質問 J)	246.75	0.0001	***	
会計時の女性 支払額 (質問 E)	女性優位の男女役割変数 (質問 A)	199.93	0.0345	**	0.0908
	性別(質問 J)	-252.53	0.0001	***	

以上

引用文献

大垣昌夫, 田中沙織, 2014. 行動経済学入門. 有斐閣, 東京.

萩原賢, 福田祐貴, 福田恭子, 水谷文彦, 大垣昌夫, 2010. 住居に対する消費行動と虚栄心の関係性 —首都圏における高層マンションを事例として—. 慶應義塾大学経済学部大垣昌夫研究会研究グループ論文, 6.